

まえがき

大学に入学してくる学生は、化学をほとんど学んでこないものから、「化学基礎」を学んだもの、これに加えて「化学」も学んできたものまで多様である。一方で、さまざまな専門分野に進む学生の、その化学に対する必要度もまちまちである。こうした状況を踏まえ、基本的に高校の「化学基礎」・「化学」の知識を前提とせず、また、化学を理解するうえで、本当に必要な基礎となる内容に厳選しつつも、高校で化学を学んできた学生をも満足させられる、化学の本質やより幅広い化学の知識を網羅した教科書が必要である。

本書は大学の「基礎化学」あるいは教養としての「化学」関連科目の教科書として、上述の必要性に沿ってつくられたものである。そして、通常 14～15 回の講義が行われることを想定して、**精選された 12 章から構成**されている。

本書の特徴を以下に挙げる。

- ・ 大学受験で問われるような計算や暗記をできる限り排除して、化学の本質や本当に必要なことを伝え、「なぜ?」「どうして?」に答えるものとするを基本としている。
- ・ 化学の基礎だけでなく、たとえば高分子材料や環境などの化学に関連する重要分野についても広く学べるようになっている。
- ・ 著者には大学教員だけでなく高校教員も加わって、学ぶ側の立場からできる限りわかりやすい内容となるように工夫されている。
- ・ 各章に「**コラム／発展**」として関連する話題や発展的な内容を盛り込んだ。

化学をできる限り身近なものとして感じられるように、そして化学に少しでも興味をもてるように配慮された内容になっており、また、化学をあまり学んでこなかった学生やリメディアル用の教科書としても対応できるものとなっている。**高校から大学への橋渡しとなる「化学」の教科書**として位置づけられるものである。

2018 年 2 月

著 者